

老 健 いばらき

第43号

2013.8.1



メロン畑（収穫量日本一の産地）銚田市

撮影協力：JAほこた・市村知一様

発行所／ 一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会
発行人／ 小柳 賢時

編集人／ 田尻ヶ丘ヘルシーケア
博 純 苑
編 集／ ゴーエン美浦
ごぎょうの郷
つくばリハビリテーションセンター
涼 風 苑

石川 達也
渡辺キヨ子
岩瀬 剛
宮田 澄子
市原 健一
池田 八郎

「あいさつ」

一般社団法人

茨城県介護老人保健施設協会

副会長 岩瀬 剛

本年度6月6日の理事会におきまして、ご承認をいただき、副会長に就任いたしました。岩瀬 剛と申します。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。理事会の席上、一度は固辞したのですが、小柳会長、大場副会長の強い説得により、お引き受けることとなりました。

私は、岩手県の葛巻町の出身です。高校時代より上京し、勉強に励み、医師となりました。32年前に、稲敷大地にて、美浦中央病院を開業し現在に至ります。現在、美浦中央病院を中心に、二つの特別養護老人ホーム（筑和会・宝永館、朱白会・ルロシエ）と二つの介護老人保健施設（ゴーエン美浦、プエブロ稲敷）を運営させていた、だいております。運営の方針は、患者様を、第一に考えることです。至らないこともありすが、そのように努めております。トップとして、必ず職員の皆さんへの挨拶の時に、患者さんのために一生懸命働こうと、いつも言っております。

最近、介護保険の永続制について、いろいろと、心配しております。要支援1・2の縮小について議論が盛んですが、財政的な問題が大きいようです。介護保険を支えるには、社会の繁栄が必要で、結果として介護保険の永続制が、生まれると考えております。現在の安倍政権を応援するとともに、アベノミクスの成功を、心から祈るものです。

茨城県介護老人保健施設協会のために、少しでもお役に立てればと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

一般社団法人

茨城県介護老人保健施設協会

理事 熊坂 裕吾

この度、理事に就任することとなった鹿野苑の熊坂です。医療法人「善仁会」は、鹿嶋市に「小山記念病院」、同市内に介護老人保健施設「鹿野苑」（入所100名、通所リハビリテーション80名）と居宅支援事業所「小山記念病院ケアセンター」を開設しております。母体となる小山記念病院は、昭和44年11月に小山病院として開設され、地域と共に発展する病院を目指し「心から患者様の身になって医療行為を致します」の理念のもと日々職員一同医療・介護の向上と技術の研鑽に励んでおります。

当施設は平成2年8月の開設以来、地域の間施設となるべく居宅介護支援事業者やその他の保健医療福祉サービス提供者と連携を図り、利用者様がこの地域において総合的サービス提供を受けることが出来るよう努めております。昨年より入所者様の在宅復帰に関しまして本格的な取り組みを始め、昨年11月には在宅復帰・在宅療養支援機能加算の算定を開始し、さらに今年2月からは在宅復帰強化型施設となることが出来ました。介護保険制度の目的の一つに「社会的入院をなくし、住み慣れた在宅での療養を可能にする」というものがございますが、核家族に伴う老老介護が増えている現代において、在宅での受け入れが困難なケースも増えていることは日々の現場において痛切に実感しております。当施設としては、利用者様、家族様に対しての個々のニーズに即した最適な介護サービスの提供を徹底し豊かな在宅生活を送れるようこれからも努力して参りたいと思っております。引き続き会員施設様には、ご指導・ご鞭撻いただければと思っております。

一般社団法人

茨城県介護老人保健施設協会

理事 宮田 澄子

この度6月の理事会におきまして承認いただき理事に就任させていただきました。協和ヘルシーセンターの長山先生から後任をおおせつかり、県西地区からの参加となります。大変な責務と考えます。何とぞよろしくお願ひいたします。

老健協会におきましては、各種連絡を頂戴するだけ、春の研究発表会ではいつもお世話になってばかりの関係でした。これからは私やごきょうのさと里スタッフも、協会や会員の皆様のために頑張る所存です。何かお気づきの点がございましたらお声をおかけください。

さて、皆様には4月23日から開設された茨城県老人保健施設協会のホームページをご覧になりましたか。実は私は今回の理事会でやっと認識しました。このホームページは始まったばかりですので一般の方向けのご案内が中心ですが、県内の老健のことがわかります。さらに各施設のホームページにもリンクしているの、軽くネットサーフィンしてみたいかがでしょうか。茨城の仲間達の様子がわかります。

今年度、私は広報委員となりました。諸先輩方に教わりながら、皆様のお仕事に生かせるような情報の伝達を行いたいと思っております。ここにきて、私達を取り巻く社会情勢は大きく変わりそうです。医療や介護、年金などの社会保障支出についても「聖域」とせずとなつてしましました。社会保障制度の変革は生活者としても、ケアを仕事とするものとしても不安ですが、制度が変わっても本来の私達の仕事に変わりはありません。スタッフの皆様の頑張る気持ちをサポートできるような、広報でやりたいと思っております。

よろしくお願ひいたします。

茨城県保健福祉部
長寿福祉課介護保険室

室長 荒井 正徳

このたび、長寿福祉介護保険室長に就任いたしました荒井正徳でございます。

茨城県介護老人保健施設協会会員の皆様方には、日頃から、本県の高齢者福祉行政の推進並びに介護保険制度の円滑な運営に多大なご協力とご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、大きな被害をもたらしました、東日本大震災における被災した社会福祉施設の復旧につきましては、今年3月末でほぼ完了したところであり、会員の皆様はじめ関係の方々のご尽力に対し深く敬意と感謝の意を表します。

さて、高齢化の進展に伴い、医療、介護の重要性はますます高まっておりますが、国におきましては、将来の社会保障制度のあり方を検討するための「社会保障制度改革国民会議」の審議が昨年11月にスタートし、医療をはじめ介護、年金のあり方について今年8月には、その結果をまとめる予定となっております。県といたしましては、国民会議の動向を注視していくとともに、「第5期いばらき高齢者プラン21」に基づき、地域包括ケア体制の推進を施設の柱に位置づけて、各種の高齢者施策を市町村、関係団体、県民の皆様との連携を図りながら着実に進めてまいります。

会員の皆様方におかれましては、これからの地域包括ケア体制の推進において、地域の福祉介護の拠点として介護老人保健施設に期待される役割は大きく、引き続き利用者の立場に立ったケアやリハビリテーションなど、質の高いサービスをご提供されますようお願い申し上げます。

むすびに、今後とも、本県の高齢者福祉行政の推進にご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げますとともに、茨城県介護老人保健施設協会の益々のご発展を祈念いたします。

3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	平成25年度 茨城県介護老人保健施設協会 事業計画
職種別専門委員会 定時理事会	老健いばらき第44号発行(1日) 第21回研究発表会、功労者・永年勤続表彰(20日)	学術委員会 研究発表会担当者会議	定例理事会	栄養専門委員会 嚙下関連事例発表会(19日) 広報委員会 老健いばらき担当者会議	事務専門委員会 情報交換・加算関連の具体例報告等	学術委員会 研究発表会担当者会議(12日)	老健いばらき第43号発行(1日) 事務専門委員会 接遇研修会(9日)	「負担のかからない介助方法」 リハビリ専門委員会 施設内安全管理(19日) 看護・介護専門委員会 研修 ①加算について②相談業務について(2日) 「負担のかからない介助方法」	定時社員総会・定時理事会(6日) 栄養専門委員会 加算関連の具体例報告(11日・13日)	老健いばらき担当者会議(28日) 介護保険事情(17日) リハビリテーション専門委員会 加算関連の具体的報告等(16日、20日) 栄養専門委員会	

職種別専門委員会報告

看護・介護専門委員会

ゆうゆう

吉田浩之

平成25年度の看護・介護専門委員会の副委員長を仰せつかりました。介護老人保健施設ゆうゆうの吉田浩之です。前任者の黒木よりバトンを受ける形で務めさせていただきます。

年に2回の専門研修ですが、みなさまの求めている内容で実り多い研修を今年度も委員長をサポートしながら計画していきたいと思っております。すでに「古武術を使った介助法」の研修を開催したところですが、いかがだったでしょうか？研修で学んだことを現場で活用され、ご利用者様はもちろんのこと皆様におかれましても身体を第一に考えたケア技術を身につけられ長く仲間として共に働けることを祈っております。

力不足ではありますが、皆様からのアンケートやお声を頂戴し、より良い研修を計画していきたいと思っております。引き続き当委員の運営にご協力いただき、ご多忙とは存じますが研修会の際には、多数のご参加をさせていただきますようお願い申し上げます。

リハビリテーション専門委員会

フロンティア 鉾田春の場所

鈴木悠史

「老健で働くということ」利用者の送迎・入浴介助・リハビリテーションの参加、イベントの計画、パチスロ、アニマルセラピー、在宅復帰支援活動などなど。老健でのリハビリテーション業務は施設ごと多種多様。その中には職員の満足感を引き出し、愛社精神を強める施設があり、「自分の施設でも色々なことに取り組みたい」と私自身新人の頃に良く施設見学に行ったものです。

【3職種が集まる必要性】多くの研修会は「TOT・ST」それぞれの職種を対象に催されています。ではこの3職種が一堂に会するメリットは一体何でしょうか？ひとつは「通所リハビリテーション」や「ケアプラン」とリハ計画書の整合性など職種の専門性ではなく、「老健スタッフ」としての専門性を高めることができる点です。

もうひとつは「介護保険制度の疑義解釈」や「老健でのリスクマネジメント」など老健に特化した内容でありながら、新人・中堅・リーダーなど役職や経験年数に合わせた研修会を提供できる点と考えています。

【つながる】チーム老健いばらき【当専門委員会は「県内すべての老健スタッフ」が刺激しあえる仲間になること」を目的とし、より多くの方が参加できるように努めています。そのためにも「老健スタッフ」としての専門性を高めながら、多くの施設での取り組みを知り、お互いの愛社精神を高めあえるような場を提供できるよう研鑽を積んで参ります。

支援相談員専門委員会

田尻ヶ丘ヘルシーケア

黒沢 典子

日頃より、支援相談員専門委員会の運営にご協力いただき感謝申し上げます。

7月2日には、第1回研修会としまして情報交換会を開催しました。91名の方のご参加をいただき、各種加算や相談業務等について、活発な意見交換が行われました。他の施設の取り組みについて情報を得る良い機会となれば幸いです。

10月には、講演会方式の研修会「相談援助技術について」を予定しております。支援相談員・介護支援専門員の交流の場、また、専門職としての知識や技術を高める場として、多くの方のご参加とご協力をお願い致します。

事務専門委員会

ライフライフ

生方 礼子

今年度、事務専門委員会副委員長をさせていただきます。微力ではありますが、皆様の役に立つ研修会や委員会の活動に努めて参りたいと思っております。ご協力をお願いいたします。

当委員会の活動といたしまして、8月に講師の方を迎えて接遇の研修会を開催いたします。当たり前のことをしっかりと当たり前に行うことが、じつは、一番難しいんじゃないかと思うのです。また接遇って思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、この研修に参加することで、日常、当たり前にしていることを、考える、話し合える、そして、気づいていける機会にしていただければと思っております。

栄養専門委員会

ゆうゆう

足立 深紗子

日頃から、栄養専門委員会の運営にご協力いただき、ありがとうございます。管理栄養士としての日頃の悩みや疑問を相談できる場が少ないという意見から、先日、県内5ブロックに分かれて研修会を開催し、多数のご参加をいただきました。

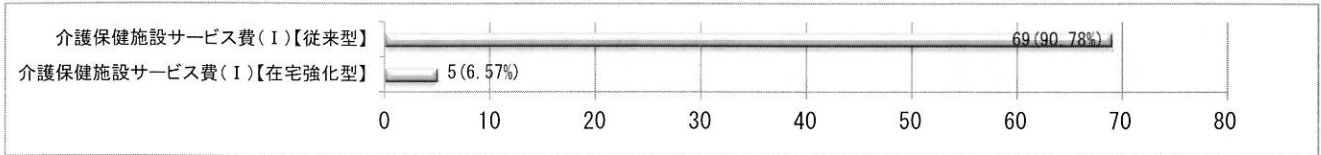
当日は、加算算定や食事形態の調整に関する疑問や、栄養ケア計画書作成についてなど、活発な意見交換が行われ、とても有意義な研修会になりました。

今後も各施設内で専門職としての力を発揮できるように、栄養士・管理栄養士間の交流の機会を増やしていきたいと考えております。また、11月頃に経営栄養に関する講演を含めた全体研修会を開催予定ですので、多数の参加とご協力をよろしくお願い致します。

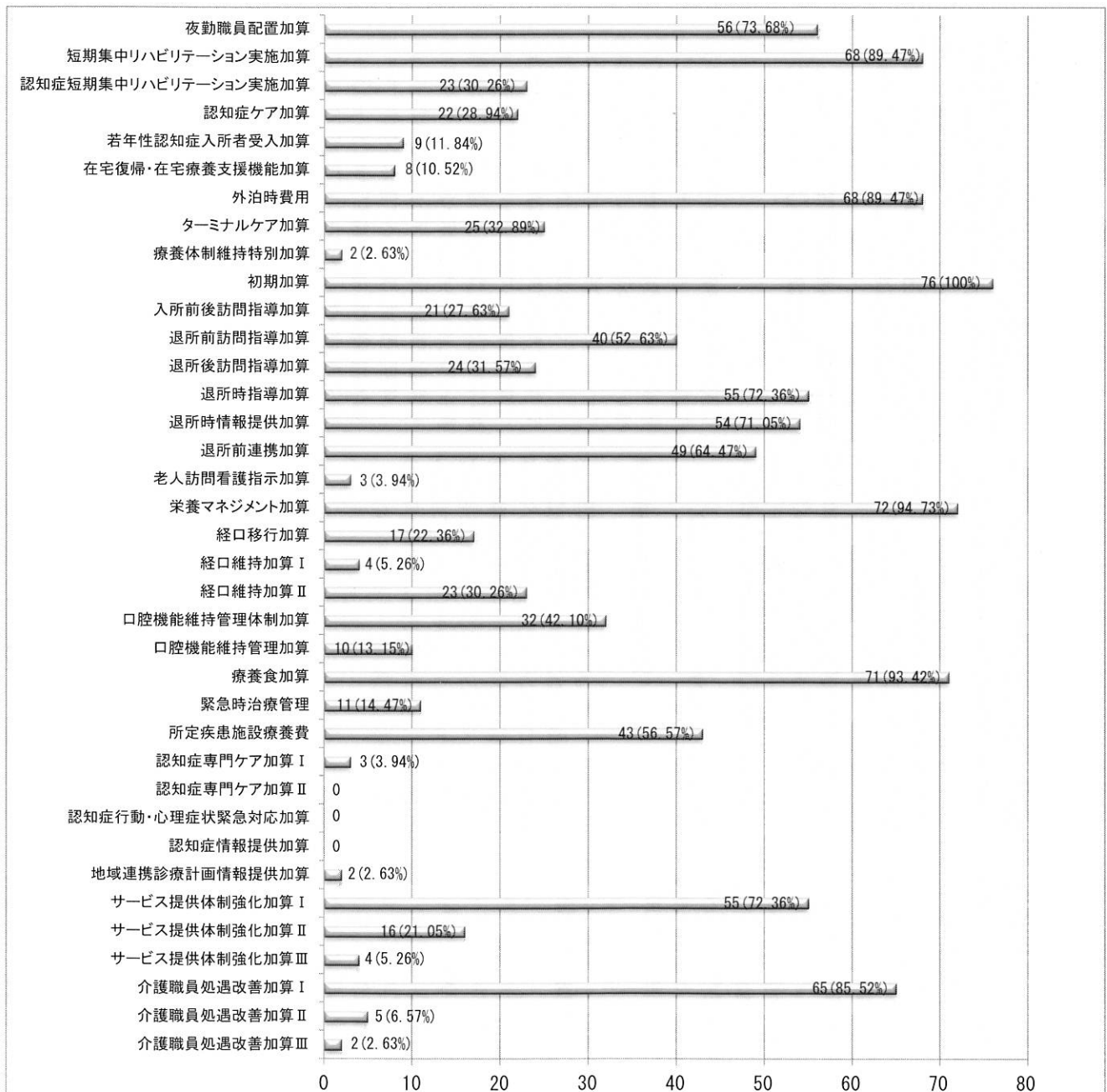
介護給付に関する各種加算の算定有無についてのアンケート調査結果発表

- ★調査対象 ⇒茨城県介護老人保健施設協会会員106施設(平成25年8月1日現在)
⇒平成25年8月1日現在にもとづいて調査
- ★回収総数 ⇒76施設(回収率71.69%)

介護保健施設サービス(基本部分)



介護保健施設サービス(加算)



注)加算「有」と回答した施設について
 ・過去三ヶ月間において加算請求の実績がある(平成25年3.4.5月のサービス提供分)

注)加算「無」と回答した施設について
 ・加算の届出をしていない。
 ・加算の届出をしていても、加算を請求する体制(人員、書式等)が整備されていない。
 ・加算を請求する体制(人員、書式等)が整備されているが、対象者がいない。

「在宅強化型算定までの道のり」

社会福祉法人 北養会

介護老人保健施設 くるみ館

支援相談員 横山 信介

当施設が在宅復帰施設を目指し始めたのは、平成19年からでした。取り組み当初の在宅復帰率は10%未満で、そこからの道のりは険しいものでした。不転の決意で取り組みを進めていく中で、在宅復帰が徐々に軌道に乗り始め、平成22年11月には、在宅復帰率30%を超えることができました。それが弾みとなり、平成24年度は、年間を通じて在宅復帰率40%台で推移し、今年5月に、念願の50%超えを達成しました。7月1日現在では60%台で推移しています。

当施設が在宅復帰に向けまず取り組みだことは、リハビリテーションスタッフの充実を図ることでした。現在、施設専従のリハビリテーションスタッフとして、PT/OT/ST合わせて9名が常勤配置されています。リハビリテーションスタッフとの連携を軸に、全職種が生活リハビリテーションの強化に努めており、それが在宅復帰の実現にも繋がっていると思います。

そして、インターネットなどに利用者・家族のニーズや課題を的確に把握することも、在宅復帰を実現する上で、重要な要素を占めています。支援相談員は、施設利用の窓口として、利用者本人・家族の真のニーズを現場職員に伝え、適切な支援に繋げる役割を担っています。当施設では支援相談員4名体制で臨んでおり、それぞれがサービス及び利用者の担当を持ち、本人・家族に対するきめ細やかな対応を

行うように心掛けています。

また、在宅復帰を進める中で、退所時のみの訪問指導に疑問を持ち、平成23年度後半からは、入所前後の自宅訪問を開始しました。利用者が自宅で過ごすために何が必要なかを生活の場から多職種で見出すとともに、リハビリテーション・生活リハビリテーション・在宅サービスを活用してどのような在宅生活をしていくのかを家族とイメージしていきます。

これらのことを、各専門職がそれぞれ実施していく事で、在宅復帰をされる方が増えるようになりました。

一方、在宅復帰を困難にする要因もあります。ご利用者の状態とご家族の不安です。これには、環境調整も必要になります。

当施設では、利用者の状態に関する課題改善は、看護介護・リハビリテーションスタッフが連携して行います。専門職によるリハビリテーション以外の時間には、トイレ動作の練習や歩行・立位訓練等の生活リハビリテーションを看護・介護職により実施します。

ご家族の不安に関しては支援相談員の面接が大きな役割を占めます。在宅生活における不安が何なのかを具体的に把握し、課題を克服するために何が必要なのかを導き出します。

そして最後に環境調整です。これは、自宅訪問においてご利用者の状態と必要な環境を多職種で見極め準備を進めます。在宅への退所が現実的になれば、居宅介護支援事業所の介護支援専門員にも同行を依頼し、協力を仰ぎます。これらの取り組みにより在宅復帰を困難にする要因を取り除き、在宅復帰に繋がっています。

「在宅復帰強化型取得への取り組み」

医療法人社団善仁会

介護老人保健施設 鹿野苑

事務次長 岸 昭博

した考え方に変わりました。在宅強化型に移行するまでには多くの紆余曲折がありました。この過程で、多くのご利用者の真の笑顔が見られ、それが職員モチベーション向上に繋がったと思います。老健は多岐に渡る役割を求められていますが、一番の役割は在宅復帰と考えています。地域包括ケアシステムに向け、今後老健の役割を担えるよう、施設一丸となり精進していきたいと思っています。

平成24年介護報酬改定により「在宅復帰強化型」が新設されることになりました。在宅復帰・在宅療養支援機能加算と合わせ、介護予防・重度化予防の観点から、リハビリテーション、機能訓練など自立支援型サービスの評価と重点化として、老健についてはより中間施設としての役割を担っていくことが明確化された改定となりました。強化型施設サービス費と在宅復帰・在宅療養支援機能加算の両者については、それぞれ在宅復帰率とベッド回転率を指標としたものとなっており、在宅復帰強化型では、復帰率50%かつベッド回転率10%以上が必須条件となります。一方、在宅復帰・在宅療養支援機能加算では、復帰率30%かつベッド回転率5%と強化型よりはハードルが低く設定されています。

当施設では、昨年の6月から本格的に在宅復帰への取り組みを開始しました。まず、在宅復帰を目的とする入所者の受け入れを行うため短期入所に設けてい

たベッド10床の内4から6床を在宅復帰用ベッドに転換し、さらに在宅復帰については、開始当初で月に2・3名の利用者が在宅へ退所できるようにしました。在宅復帰される利用者の受け入れについては、当法人の母体である小山記念病院から積極的に行い、利用者については、大腿骨頸部骨折などの機能的な回復が比較的得られやすい整形外科疾患を中心として行いました。

急性期病院での取り組みとしては、入院時及び術後ムンテラ時に医師・看護師・医療ソーシャルワーカーから家族に対して退院後のリハビリ施設として老健を案内してもらい、医療から介護の間でシームレスなリハビリテーションの提供が出来る事を理解していただきました。一方、老健での取り組みとしては、入所申込時に入所期間の目安と入所から退所までの流れについてフローチャートにて説明を行い、また入所後早期に、施設ケアマネージャー及びPT・OTによる自宅訪問を行うこと、さらに入所中から福祉用具の貸与を積極的に行うことで退所後の生活イメージを家族と共有できるように努めました。

結果として、平成24年6月からの6か月間で在宅復帰率56%、ベッド回転率4.1%となり強化型施設となることが出来ました。

在宅復帰のための中間施設として本来の役割を取り戻し、リハビリテーションを中心とした施設サービスの提供と、多職種連携を強化することにより利用者及び家族との共有目標を明確にすることが在宅復帰の目標を達成できた要因と考えられます。今後も引き続き、個々のニーズに応えられる施設サービスの提供に努めていくことが必要と思います。

「その日その時を大切に」

介護老人保健施設

ゴーエン美浦

埜口 恵里香(介護福祉士)

介護老人保健施設ゴーエン美浦は平成7年に開設した歴史ある施設です。私はここで介護職として働き始め、早5年が過ぎようとしています。

入職当初は、十分なサービスを提供するには人手の足りない中、たくさんの業務をこなさなければならず、時には指示されたことだけ機械的に行動をしてしまうことや、利用者様と接する時間を疎かにしてしまうこと、声のトーンが上がってしまうこともあり、今思うと反省することはばかりです。

利用者様に対し、不適切な対応は許されない行為です。

私が利用者様の立場だったら、とても悲しいと感じると思います。そのため利用者様と接するときは、常に最善の対応、訴えを後回しにしない、いつも笑顔で丁寧に、を心掛けて頑張っています。

「こうしていればよかった」と悔いの残らないよう、忙しい業務の中でも心に余裕を持ち、その日その時を大切に利用者様と関わりを持てるよう努力していこうと思います。そうすることで「ゴーエン美浦で過ごした時間は最高だった」と利用者様に思ってもらえるよう、日々仕事に励んでいきたいと思っています。



「あなたがいて良かった。」 とって頂ける介護士を目指して」

介護老人保健施設

はなみずき

大江 明日香(介護福祉士)

介護老人保健施設はなみずきは、JR水戸駅から車で約20分の水戸市中心部に位置します。水戸の名所である偕楽園や千波湖にもほど近く、夏の「黄門まつり」の時には、千波湖で打ち上げられる花火を、施設の高層階から鑑賞することもできます。

施設は、以前、国立水戸病院のあった敷地面積4万3,525㎡(東京ドームほぼ1個分)の場所に、北水会グループが運営する病院や、理学療法士・言語聴覚士養成の専門学校、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、保育園、フィットネスクラブ、レストラン等が立ち並び複合エリア「水高(スイコウ)スクエア」内にあり、開設4年目の施設です。

私は、学生時代に介護老人保健施設での介護実習の際、介護職員の方がご利用者のADLの維持・向上を考えながら残存機能を活かした生活リハビリテーションに力を入れ、在宅復帰に向けて頑張っている姿をみて、「私も老健で働きたい。老健でご利用者様のお手伝いがしたい。」と思い、当施設に開設スタッフとして入社しました。

入社当初は、なかなか思ったように業務をこなすことができずに、ご利用者様にご迷惑をかける事が多く、何度もくじけそうになりました。しかし、そのたびにご利用者様の温かい笑顔や言葉、先輩方のアドバイス、同

期のスタッフとの意見交換を通しながら切磋琢磨し、楽しく仕事を続けてくる事ができました。現在では、フロアリーダーという役職に就いて、日々の業務に励みながら新人教育も行っています。

当施設は、開設4年目を迎え、老健としての機能・役割を実践できるよう業務の見直しを行い改善している最中です。

現在では、音楽療法やエリア内にある保育園の園児との交流など、新しい取り組みにも力を入れています。

ご利用者様やご家族様のご希望や意向に沿えるよう在宅復帰に繋げ、出来るだけ長く在宅での生活が続けられるように、カンファレンスやミーティングを通して他職種と連携を図りながらサービスの提供を行っています。

又、施設全体の目標として、在宅復帰支援強化型の施設を目指して頑張っています。

私は、ご利用者様の日々の生活の中で、一人ひとりの訴えに耳を傾け、何か「今以上にご利用者様が出来る事はないか」「他に望んでいる事はないか」を探しながら業務を行っています

介護職員として「あなたがいて良かった。」とと思って頂けるよう、又、信頼を得られるような職員を目指し、今後も業務に励んでいきたいと思っています。



新施設の紹介



介護療養型老人保健施設 ネオテラス宗仁会

〒300-1546 茨城県取手市岡1493
TEL0297-85-8815 FAX0297-85-7080
施設長 丸野 禎

「ひまわり」は、療養型病床から転換した県内第1号の療養型老健で、つくば双愛病院4階に、平成21年9月に開設いたしました。オープンに際しては、当初よりつくば双愛病院のソーシャルワーカーや訪問看護ステーション、また、通所リハビリテーション、居宅介護支援事業所などとの連携のもとに、スムーズに離陸いたしました。内容的には、従来の老健より看護師と介護福祉士数がかなり強化されているので、医療の領域もかなりカバーしており、さらに高度の医療が必要になった場合には、ただちに病院の支援を受けられる体制となっております。

この介護から治療までの切れ目のない連携によって、安心して介護を受けられる老健を目指していきたくて願っています。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

ネオテラス宗仁会は介護療養型老人保健施設で、昨年12月1日新棟に移転しました。新棟の1階は宗仁会病院（一般病棟30床、外来、検査部門、健診、リハビリ部門）、2階が介護療養型より転換した84床のネオテラス宗仁会は、通常の老健施設の機能に加え、急性期治療を終えて慢性期となられた方の療養施設です。医療・看護が必要な方、痰の吸引や経管栄養、褥瘡処置などを中心に医療処置が必要な方のケアが可能で、ターミナルケアや看取りにも対応できる施設となっております。

また、病院併設により医療と介護の連携を迅速且つ密接に図りながら、地域医療への貢献を念頭に活動しております。加えて、当院は茨城県喀痰吸引等研修の登録研修機関に認定され、ネオテラス宗仁会はその実地研修場所となっております。介護士等への喀痰吸引等研修を実施しており、介護士等のスキルアップ、教育にも力を入れております。



医療法人社団双愛会 介護老人保健施設ひまわり

〒300-1245 茨城県つくば市高崎1008
TEL・FAX 029-871-5749
施設長 高瀬靖広



社会福祉法人 愛の会 介護療養型老人保健施設 桜の郷敬愛の杜

〒311-3117 東茨城郡茨城町桜の郷1000-2
TEL 029-353-6581 FAX 029-353-6582
理事長 木村 都央

茨城県の誇る優しさのまち桜の郷。緑豊かな街並みに平成24年7月、「桜の郷 敬愛の杜」が開設致しました。

施設の特徴の一つに温水プールがあります。水中リハビリをお受けになられた方々からは、大変好評をいただいております。又、お客様を迎えるエントランスホールにはカフェテリアがあり、憩いの空間としてご利用いただいております。

私たちハートピアグループの理念は、「つねに己を慎み、人を敬うの精神をもって、人間尊重と利用者本位の原則に基づき、全機能を挙げて地域福祉の充実発展に努める。」です。スタッフ一同は、この法人理念を胸に刻み、地域の皆様から認められる施設づくりに努力しております。

開設から一年が経過致しますが、今日まで、各関係機関の皆様や地域の皆様から賜りました御支援と御指導に、心から感謝を申し上げます。今後とも、何卒宜しくお願い申し上げます。



みんなの広場



はすみ敬愛



宝船と七福神

通所利用の皆様による貼り絵の作品です。完成した絵は、縁起が良いと皆様に好評です。



あさがおと七夕まつり

入所の皆様で作成いたしました。七夕飾りは、ご利用者様がパーツを1つ1つ丁寧に作りあげ、職員がまとめ上げました。ダイナミックな作品に仕上がりました。



リボンのポーチ

一本のリボン(写真右)を縫い合わせていくと、なんとポーチになります。簡単な工程で意外性もありプレゼントとしても喜ばれました。

涼風苑



フンポイントの絵柄が華やかな小銭入れ小さく見えて、しっかり入る、機能性も良い作品となりました。

一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会ホームページ開設のお知らせ

拝啓 盛夏の候、皆様方にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃から本会事業推進につきまして は、ご協力賜り深く感謝申し上げます。さて、すでにご案内させて頂いておりますが、当協会のホームページを下記のURLアドレスにて公開しております。当ホームページでは、茨城老健の概要、各施設情報などのご案内や、また、入退会届、各種変更届などのダウンロードも可能となっております。どうぞ、ご利用ください。尚、施設情報の追加や変更など、随時、更新可能となっております。皆様方には、今後共、ご指導ご協力の程、お願い申し上げます。

ホームページアドレス:<http://i-roken.or.jp/index.html>

敬具

表紙は、茨城県が長年の研究を重ねて開発したメロン「イバラキング」です。メロンの王様として茨城県の顔になって欲しいとの願いから命名されました。イバラキングは、茨城県の契約農家だけが栽培する特別なメロンです。果実肥大性に優れ、滑らかな肉質を持ち、糖度が高いながらも爽やかな甘さが特徴です。寒さに強く、早出しのメロンであるため、本誌が発行される頃には入手出来ませんが、今年は春先から天候に恵まれて他品種のメロンも美味しく育ちました。メロンには体温を下げる働きがあるほか、肌を回復するビタミンC、体内水分バランスを整えるカリウム、疲労回復作用のあるクエン酸、腸の動きを活性化するペクチンなど、この時節に欠かせないビタミン・ミネラルが豊富に含まれています。今年の夏は、生産量全国一位を誇る茨城県産の美味しいメロンを是非ご賞味下さい。常温で保管し、食べる2時間前から冷蔵庫で冷やすことが美味しく食べるコツだそうです。

一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会

水戸事務局

水戸市千波町 1918(月・金 9:00~13:00)

TEL 029-291-5376 FAX 029-291-6057

平成園

古河市旭町 1-17-39(左記以外時間帯対応)

TEL 0280-31-5998 FAX 0280-31-7767

